314
6

享保令典永鑑

十九下

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

御褒美之記

享保二酉年十月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保二年十二月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

享保元年十月

別而骨折の段ニ存候
右為御報申入候
九月中の報ハ今年ニ而
委細ハ後便
十月

享保九年二月

追而
御文配ニ而ハ七拾冊
又ハ拾冊ハ先ハ御報ハ
御出ハ不申候ニ而ハ
御味ニ而書付ハ
一筆被下候ハ
御恩ニ存候事

一為政者勤倹自守風俗厚朴之事

一文化年中米穀つまり過半直段引下候儀ハ御仁政ニ被為在候事

二月

享保元年二月

元

組文配之儀ハ為政之中第一之儀ニ候間為政者ハ勿論諸役人ニ至迄常ニ心を用ひ倹約を守り奢を禁し勤を旨とし候ハゝ下々ニ至迄自然と風俗厚朴ニ成行候事

一十年目ニ当る年ハ加恩被下候事

一十年依来地図以風土書未商売之
申上候事
一文十年業用ニ過差ニ
候ニ付陳米之
三月

享保六丑年二月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

跟拾枝文不之
之助一代刀帯
苗字名乗ニ而山

組苗字之子孫ニ而

右之通ニ而公儀ニ
勤功ニ之ニ親ニ
之ニ而ニ及御沽券書面之ニ
之ニ而ニ及御沽券書面之ニ

仰付ニ

御徒頭次席御代官本
御沽券ニ而名乗ニ

金三郎

右組代帯之ニ実秋ニ而名乗ニ而山
勤功ニ之ニ代官ニ之ニ跟拾枝文不之
之助一代服差帯
ニ而山

同人御代支本
同国同村平百姓
又左衛門

右之者公儀ニ之ニ
之ニ而ニ及御沽券書面之ニ

仰付ニ

右之通今度文配本勝ニ差行候ニ而
又志摩引正ニ而ニ御沽券ニ人之ニ之ニ

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保十二未年正月

仙洞御所

淺草小揚

利貞

先年人々御申渡之趣

淺草揚御小揚地之儀

之者共家建御免之儀

先御奉行衆淺草御

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保十二未年十月

諸役人演舌有之

令参会

令式令

右之条々人勿論諸
世話仕候代官より申渡
之候間可被存其旨候
十月

享保十二未年十月

諸役人演舌有之

令参会

令式令

右之条々人勿論諸
世話仕候代官より申渡
之候間可被存其旨候
十月

享保十七壬子年閏九月

奉行

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

右之通會計局ヨリ仕上ノ為メ廻送ニ付
最寄配分限リ廻送可差渡
候事
但取扱方之儀ハ一昨年第
右之通御勘定所同様当中渡ノ節モ
七月

享保十八丑年八月

七月十日ノ同廿九日之同
ノ分差出書二処ノ
先以一統之義
勘定所御勘定中
右之趣ノ
当中渡ノ

享保十八丑年十二月

去秋より米麦ニ至迄諸色高値ニ付
御救米被下置候ニ付上ニ対シ恐入
候儀ニ候得共猶又御救米ニ預リ度
奉願候ニ付而ハ別紙ニ委細申上
候間御吟味之上願之通被
仰付候ハヽ難有仕合ニ奉存候
以上

享保十八丑年十二月

貧窮人救之者ニ候
上ニ対シ恐入候
猶又御救米ニ預リ度
別紙ニ委細申上
候間御吟味之上願之通被
仰付候ハヽ難有仕合ニ奉存候
以上

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

財分泳救合百事
一銀弐百枚　　京都町　三百七拾三町
一銀百枚　　小場仁右衛門代支木
　　山城摂津丹波出
　　大和河内　百拾二ヶ村
一銀弐拾枚　　紀州木之本以代支木
　　山城摂津近江
　　大和河内　六拾二ヶ村
一銀弐拾枚　　大津町　拾壱町
一銀三百枚　　大坂町　二百弐拾七町
一銀三拾枚　　出雲町　六拾六町
一銀三拾枚　　京橋町　弐拾二町
一銀弐拾枚　　伏見町　九町

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6
ガラス使用

一浪六拾枚
一浪弐拾枚
一浪二拾枚
一浪六拾枚
一浪弐拾枚

堺町
百二拾六町
石京津萬代皮木
大和国
百八拾壱ヶ村
生山津萬代皮木
大和国
七拾八ヶ村
平栄美濃代皮木
摂津国
河内国
百弐拾壱ヶ村
久下敬十郎代皮木
摂津国
和泉国
弐拾八ヶ村

一浪六拾枚
一浪弐拾枚
一浪弐拾枚
一浪拾枚

石京津萬代皮木
摂津国
河内国
百拾ヶ村
多屋尾定兵衛代皮木
大和国
弐拾九ヶ村
上森又蔵代皮木
山城国
摂津国
河内国
弐拾ヶ村
角金与市代皮木
大和国
河内国
弐拾八ヶ村

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

一 銀弐拾枚

一 銀弐拾枚

一 銀弐拾枚

多祢清富嶋改代支配
播磨備後
播磨備中兼帯
弐拾弐ヶ村

嶋名改代支配
但馬
播磨
百七拾七ヶ村

布施淡路御改代支配
石見
備後
百六拾ヶ村

一 銀弐拾枚

一 銀弐拾枚

松平式部少輔領分
出雲
安芸
弐人

布施淡路御改代支配
但馬
播磨
備後
百六拾ヶ村

小林源兵衛御改代支配
備中
備後兼帯
弐拾弐ヶ村

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

一浪弐拾枚
一浪拾枚
一浪拾枚
一浪三拾枚

百年米十斛
小林源治郎
保本左金衛
英俊

弐拾六ヶ村

寛治郎
英俊
伯中

拾弐ヶ村

保本左金衛
英俊

拾七ヶ村

源上泳
丹後

七拾弐ヶ村

一浪三拾枚
一浪弐拾枚
一浪拾枚
一浪之枚

増田左衛門
孝之
孝助

八拾六ヶ村

柳原弐郎右衛門
播磨

弐拾ヶ村

松平陸奥守
伊豫

拾八ヶ村

松平陸奥守
讃岐

八ヶ村

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

一銀拾枚

但大坂表ニ於テ飢人救助ノ為
救助金有志ヨリ松平幸次代出納ノ
取扱ヲ以テ渡世仕候処去秋出財振モ有

松平幸次代出納ノ
取扱ヲ以テ
銀拾九匁

一銀弐拾枚

松平幸次代出納ノ
取扱ヲ以テ渡世仕候処去秋出財振モ有
之ニ付別紙ノ通リ救助金ヲ以テ
飢人救助ノ為メ
仁孝天皇
御宸翰ヲ以テ
銀弐拾枚

右ハ銀ヲ以テ大坂出金ヲ以テ
十一月

出勤定等ノ
候処去秋窮民ニ金貸与人救合ノ者共ヨリ
差出之候別紙ノ通リ救助ノ為メ
褒美ノ儀ハ不苦哉ニ
出張ノ節可然ヤ
一同ニ出褒美

十一月

右之段宮之丞申出候ニ付
御届申上候以上

白沢宿名主
惣左衛門

右之通申出候ニ付
御届申上候以上

宿役人
惣代

右之通申出候ニ付
御届申上候以上

白沢宿名主
惣左衛門

右之通申出候ニ付
御届申上候以上

宿役人
惣代

一同ニ申渡ニ付
御書付
当社
御神前ニ
御備置
御初尾
銭
箱ニ
書付
之
通

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

十月

享保十九寅年正月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

元文元年十月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

三條通長先町六角弐丁目弐條幸傳又七
組合町内元長先町六角弐丁目弐條幸傳
町組二而弐拾弐軒

右之者共代々家守
根引之地借ニ而
北向表口弐間代々家
二階家四軒長宅村
百姓
長重

元文元申年六月

町奉行所

根引弐拾弐軒

惣家数弐拾弐軒
内
甲斐国巨摩郡七里村
百姓惣右衛門
忰
忠右衛門
忰
母

右之者共代々家守
根引之地借ニ而
北向表口弐間代々家
二階家四軒長宅村
百姓
長重

元文元申年六月

町奉行所

根引弐拾弐軒

惣家数弐拾弐軒
内
甲斐国巨摩郡七里村
百姓惣右衛門
忰
忠右衛門
忰
母

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

百歳に及候者書面之通
右之旨を以申越候
六月

甲斐国巨摩郡黒川
百助妻寿場
弐口
母

右百歳に及候者、書面之通
御下知之旨を以申越候
六月

甲斐国巨摩郡黒川
百助妻寿場
弐口
母

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6
ガラス使用

元文己未年六月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

但前々より孫と
代官領之儀駿河
切之大門村百姓
領主書面之通
右之通古役丹波
六月

元文元申年九月

七十歳以上之年久
當代又ハ小普請入
ニ而小普請入
其後ハ勤年数
但病氣ニ
ニ而ハ

右之趣得文旨可永業
重而令申渡者也

九月

元文元申年十月

御勘定奉行

美濃守
市橋村長
吉房

覆勘校訖

文政一代日記

前字子孫迄永續名實ともに

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

右之通御大典ニ付其村より壱人休業致不申
候様ニ御届出候間御褒賞村中ニ申合押而
不致勤労候ニ及ハ着手御口ニ手当も申候
候間御褒賞物被成御下度代支役不申候
候宜御取計可被下候 以上

浪拾枚

右文面御褒賞村来ル分ニ文面之通
御下被成候様仕度奉存候 以上

廣島村東分庄屋

文蔵

右御褒賞被仰付候ニ付支役不申候
様ニ御届出候間御褒賞物被成御下度
奉存候 以上

荒内村庄屋

伝吉

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

右之通古田俊中当ル未年
御差出

十月

元文巳未年十月

御拾枚

当月当番文字

神尾若狭守

御小姓衆

弐人

御次

六十人

午十二月

月行事

拾弐人

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保二年

一 御代官

一 御勘定

一 御勘定吟味役

一 御普請奉行

一 御小普請奉行

一 御作事奉行

一 御小姓組番頭

一 御書院番頭

一 御小姓組

一 御書院番

一 御徒頭

一 御先手鉄炮頭

一 御先手弓頭

一 御持筒頭

一 御持弓頭

一 御持筒組頭

一 御持弓組頭

一 御目付

一 御使番

一 御徒目付

一 御小人目付

一 御徒

一 御小人

一 御鷹匠

一 御鷹匠組頭

一 御鳥見

一 御鳥見組頭

一 御賄頭

一 御賄組頭

一 御膳奉行

一 御膳所組頭

一 御台所頭人

一 御台所組頭

一 御台所人

一 御医師

一 御医師組頭

一 御坊主

一 御坊主組頭

一 御右筆

一 御右筆組頭

一 御表右筆

一 御表右筆組頭

一 御納戸頭

一 御納戸組頭

一 御納戸

一 御細工頭

一 御細工組頭

一 御細工所

一 御細工所組頭

一 御細工所人

一 御広敷番頭

一 御広敷番之者

一 御広敷用人

一 御広敷添番

一 御広敷添番組頭

一 御広敷伊賀者

一 御広敷伊賀者組頭

一 御広敷御用達

一 御広敷御用達組頭

一 御広敷下男

一 御広敷下男頭

一 御広敷下男組頭

一 御広敷下男小頭

一 御広敷下男小頭組頭

一 御広敷下男小頭格

一 御広敷下男小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格

一 御広敷下男小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格

一 御広敷下男小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格

一 御広敷下男小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格

一 御広敷下男小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格

一 御広敷下男小頭格組頭

一 御広敷下男小頭格小頭

一 御広敷下男小頭格小頭組頭

一 御広敷下男小頭格

元文二申年三月

右之通被
新六郎
中事

東新六郎殿
松平左門

元文二年巳八月

勤定奉行

摂津次郎作代官来
三月城下村
名主 源右衛門

先年地頃より親類之儀
当金なし一倍利分ニ而
百姓共へ

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保令典永鑑之部

天和三癸年三月

一小納言の前より横笛を物もとより三味線
十二間ニ横笛茶筅髪ニ而脇ニ納言
不出板より三味線の中事

一納言入来ニ而検使ニ来る而物語
さ〻やかニ而三味線の事

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

一的事にあずり辞令書渡
一角之助事当時小検使ニ而
角四郎ゟ渡ニ人ニ而
同心弐人ニ而
小人目付弐人ニ而
右壱人ニ而
の中事
一

寶永七庚寅年十一月

定

一馬之儀無官之輩ハ
勿論有官之輩ハ
人分ニ応ハ
泳ハ人ニ不乗候
但ニ品ニ依急ハ

十月

元文元年九月

右弦組七日限可被施行事

百人組

御持弓頭

宮内清

先手弓頭

御弓矢方

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

擬之仕方未定事ハ次年之卯年之秋ヲ始メ中旬中渡
来ノ節ヲ以テ中旬ヨリ下旬ニ掛ケ見合ヲ以テ取計
中旬ヨリ始時始ハ日限相極ノ上見合ヲ以取計
合候ノ訳ニ候ヘ共来年ヨリ卯年ヨリ三ヶ年ノ内ニ
一組ハ必ス見合ヲ以中渡ハ可申候
以上

但シ渡船之場所数ハ後之年限ニ至リ増減
之儀ハ可申候

十月

寛保三亥年ヨリ

右被仰出之口上ハ公事訴訟
取扱候者共ハ不及申
惣而町中
在方
百人組之
御役所
寺社
御先手
御役所
御代官
御役所

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

風俗ニ於テ有之船書ヲ添ノ文リ
弁ニ於テモ右ニ准ジ

一元禄六酉年十月勅不ニ應ニ
テ人骨機雑ニ於テ有之
一元禄十二夜年七月町人ヨリ出
出願指帯候儀停止ニ於テ
一寛保二戌年十月ヨリ来商船ヲ
次中ヨリ報達中ヨリ着停止ニ於テ

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

風俗之永鑑

明暦二申年二月

一諸〻や中納言おほ
あみ笠こしたゝ又ハ編笠おし
并結揉風俗ゆるし
昌安以後横目
永停止諸侍
多出入由申

二月

天和二戌年八月

老

支配之者可養候法度不宜志養有之
年之奢於報為之候間石山等支候山根
この中分之向ハ不宜者ゟ之ゟ申ゟ
支配方ゟ急度申遣之ゟ文ゟ等ゟ通
自今仕置之ゟ中分之ゟ

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

一中之一角於御二前奏後書中渡之
以書院番以
西丸以留守居
百人組之以
以写以鉄炮以
以歩行以
西丸以裏口番以
以御扣年行

以小姓組番以
新以番以
以右筆組以
以表右筆以留守居
以用人以
小十人番以
以納戸以
二丸以留守居

以船手
以右筆組以
右之面々之内於御前被仰渡之
以下

小普請支配組以

元禄十六年癸未八月

覚

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

八月

一 勅使ニ候ハヽ不及申ニ候共、
其外隨行の向ニ候ハヽ、
一 指置ニ候ハヽ不及沙汰候、
以上

享保二十卯年八月

近年人ゟ風俗品々
ニ而無作法ニ
ニ候ハヽ遠ニ而
なとハ別而自今
可致事

右於帝鑑間席ニ
被仰渡候

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

寛保三癸亥年六月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

百人組之次
諸司次醫師
中興次小姓
大膳次
木工寮
内匠寮
主殿寮
掃部寮
主水司
典薬寮
諸陵寮
内膳司
造酒司
縫殿寮
内蔵寮
大炊

右之通一枚ニ書一人完明共六日限　御城ニ
差出報之事無洩様可申渡候
以上
　八月

　　御勝手掛
　　御書通ニ
奥御右筆組頭　兼帯

　　御小納戸
　　御用人
　　御側衆
　　御用人
　　御用人
　　御用人

寛保二戌年八月廿六日

一 両人分御供料之事
人分ハ銀子壱枚ニ而
弁ハ銀壱枚ニ付
弁ハ銀壱枚ニ付
弁ハ銀壱枚ニ付

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

右之通之訳ニ而
　　空
　　八月

別紙之觸書添　御用意可被
成置候　尤御役人
幷御供之面々ニも
其節前以可被
申渡候　御役人
ニ而も觸書
之趣
不存
候ハヽ
御用
ニ
不
立
候
間
兼
而
心
得
可
申
候

御役儀ニ付
御用意之
儀ニ
候
間
此
段
相
達
候
様
申
越
候
ニ
付
追
而
觸
書
之
趣
御
役
人
ニ
も
御
用
意
之
儀
ニ
付
此
段
相
達
候
様
申
越
候
ニ
付
追
而
觸
書
之
趣
御
役
人
ニ
も

右之觸書
渡
し

右之觸書
渡
し

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6
ガラス使用

寛保二戌年八月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保令典永鑑

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

814
6

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』請求記号 814-6

ガラス使用